

シリーズ
山口大学所蔵の学術資産
Yamaguchi University

山口大学は、教育・研究に資するため

これまで貴重な学術資料を多数収集してきました。

その内容は、古文書、古典籍、考古、美術、民俗、鉱物など多岐にわたっています。

それらを教育・研究の場で活用し、未来へ引き継ぐため

学術資産継承事業委員会において保存・継承活動を行っています。

ここではそうした貴重な学術資産をリレー形式でご紹介していきます。

03. ゴンドワナ大陸形成時の岩石

シマジョウヘンマガン 『東南極の縞状片麻岩』

(山口大学理学部地球科学標本室)

今回紹介する学術資料は、理学部の地球科学標本室に保管されている東南極の岩石標本です。約6億年前、南極・インド・オーストラリア・アフリカなどの大陸が集まって巨大な超大陸「ゴンドワナ」が形成されていたと考えられています。理学部地球科学標本室には、各大陸を駆け巡って採集した岩石標本約6000点が保管され、引出を開ければたちどころにゴンドワナの標本がそろい、全国に比類のないコレクションとなっています。



① 縞状片麻岩

標本に見られる白い縞は花崗岩、黒い縞は角閃岩という岩石です。約6億年前にできたもので、東南極に広く産出します。この標本はどのような場所から採集されたのでしょうか。



② ヘリから見た露岩地帯
氷の大陸南極にも海岸部には露岩地帯があります。ヘリで近づくと、結氷した海面から高さ100mを超える断崖に、地層の織り成す縞模様や白い脈がうねる様子が見えます。



③ 近づいて観察した露岩

どんな岩石だろうか、わくわくしながら露岩に降り立つと、そこにも縞模様と縦横に走る白い脈（花崗岩）が見えます。じっくり観察すると、黒い縞模様ができた後に白い脈ができ、さらに白い脈にも新旧のステージがあることが分かります。それらにどのような違いがあるのだろうか。色々なアイデアに沿って、的確に標本を採取するのが研究者の腕の見せ所、こうした野外の産状に基づいて分析が進められます。

岩石標本は、その土地の一部を切り取ってきたものですが、どのような部分を取ったか、という記録が研究には不可欠です。かつて野外の記録はフィルム写真でしたが次第に劣化しつつあり、デジタルデータとして保存を急いでいます。実物標本と野外記録がセットになった標本は“鬼に金棒”、真に比類のないものとなるでしょう。

